公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 25 年度 第 1 回理事会

開催日時　　平成２５年５月２０日（月）
　　午後６時３０分から午後８時００分

開催場所　　幕張メッセ　国際会議場　２０３号室
　　（千葉県美浜区中瀬２－１）

平 成 ２５ 年度 第１回 理 事 会 次 第

１．開　　会

２．報 告 事 項

1. ジャーナル関係経過報告
2. AOGS 札幌 2014 関連報告
3. その他

３．審 議 事 項

第 1号議案　総会議事及び資料の承認

４．閉　　会

（資　　料）

報告事項

1.	ジャーナル関係経過報告	（別添資料1、２、３、４）
2.	AOGS 札幌 2014 関連報告	
3.	その他	固体地球科学セクションビジネスミーティング議題（別添資料５）

審議事項

1.	総会議事及び資料の承認	総会資料（別冊） 第２期未成事業、前受収益明細書（別添資料６） 第２期予算対比正味財産増減計算書（別添資料７）

その他の資料

	規則集	（別冊）

「ジャーナル関係経過報告」

１．現状
１）JpGUジャーナルの名は 「Progress of Earth and Planetary Science」と決定した．出版開始は，2014年1月を予定している．編集委員会は50名で構成され，50％が海外在住の研究者から構成される予定である．
２）JpGUの独自の予算で小規模にでも開始することが第 7 回理事会にいて全会一致で認められた．「Progress of Earth and Planetary Science」の出版に関する入札を行うため2013年4月5日公示，19日締め切りで，入札を行い，１社が応札した．契約交渉を開始している．
３）「科学研究費補助金　海外情報発信強化」のヒアリングが2013年4月23日に行われた．現在，審査結果待ちの状態である．
４）49 学会と協力し，Open Access E-journal の発行をめざす．科研費が通るかどうかは不明であるが，出版会社と 2013 年 6月に仮契約し，2013 年 7月には selected paper の募集を開始するべく準備を開始している．
５）JpGUジャーナル編集委員会より「JpGU新ジャーナル幹事会」を組織し，ジャーナル原稿の募集要綱をほぼ決定した．さらに，編集委員長などについて議論中で，近日中に決定する予定である．
６）連合大会でU-04「オープンアクセス電子ジャーナルと学術出版の将来」をユニオンセッションで開始する．趣旨は，「日本地球惑星科学連合では オープンアクセス電子ジャーナルの2014年の刊行を目指して準備中である．本件は，「国 際情報発信強化」といった日本の科学会全体かが直面している課題を背景としている．本 セッションでは，オープンアクセス電子ジャーナルの概念，ビジネスモデル，学術出版 の将来，地球科学研究に与える影響について，他分野の招待講演者も含めて幅広く情報 交換するとともに議論を行う.」ことである．
****
セッション会場 ： 幕張メッセ国際会議場　国際会議室
セッション日時 ： 5月22日（水） 15:15 - 18:00
****

15H15-20分（５分間挨拶）
津田敏隆（公益社団法人日本地球惑星科学連合　会長，京都大学）

15時20-45分（２５分間）林 和弘（文部科学省科学技術政策研究所）
日本の学術雑誌による海外情報発信力強化

15時45分-16時10分（２５分間）
北里 洋（日本学術会議委員，独立行政法人海洋研究開発機構無）

16時10-35分（２５分間），遠藤 悟（東京工業大学大学マネジメントセンター）
米国におけるオープンアクセス化に関する政策論議の展開

16時35分-17時（２５分間）加藤 憲二（静岡大学理学研究科附属図書館）

電子ジャーナルとオープンアクセス

17時-17時25分（２５分間）小田啓邦（Earth Planets and Space運営委員会議長，（独）産業技術総合研究所）
欧文誌"Earth, Planets and Space"のオープンアクセス化

17時25分-50分（２５分間），川幡 穂高（公益社団法人日本地球惑星科学連合副会長，東京大学）
日本地球惑星科学連合によるオープン・アクセス電子ジャーナルの創刊

17時50分-18時（１０分間），全体討議
****

２．平成 24 年度公益社団法人第 7 回理事会（平成 25 年 3 月 7 日(木)）

・第 1 号議案 新連合ジャーナルの経過と今後の予定について
川幡理事より 11 月 13 日に「科学研究費補助金」の書類が提出されたことが報告された．出版社が決まり次第，運営委員会，編集委員会を開催する．49 学会と協力し，Open Access E-journal の発行をめざす．科研費が通るかどうかは不明であるが，出版会社を入札で決定 2013 年 6 月に仮契約し，自己資金 で縮小した形でスタートすることが全会一致で 認められた．ジャーナル名は Progress of Earth and Planetary Scienceを第一案とし，出版社とも相談して正式に決定していくことが全会一 致で認められた．

３．平成 24 年度公益社団法人第 6 回理事会（平成 24 年 12 月 26 日(水)）

・ 川幡理事より 2012 年 11 月以降の経過について報告があった． 11月13日に日本学術振興会に計画調書を直接提出した．サイエンス・セクション・プレジデントおよびバイス・・プレジデントへも文書で報告した．

・書類上の現状での第一段階編集委員は海外11名，日本人11名となっているが，現時点 では，海外19名まで増えており，最終的には各々25名以上を予定している．分野のバランス などとともに海外・国内の編集委員についてサイエンス・セクション・プレジデントの 方々と相談したいという希望が伝えられた．

・AGU執行部との会合が12月6日にSan Francisco, Moscone Center North Rm.123で行われた．JpGUのジャーナル計画について川幡理事が紹介し，AGUの執行部はopen access の仕組みや価格設定などについて関心を示した．特にJpGUのジャーナルについて，値段 がかなり低いことに少し驚いた様子であったので，JSPSによる補助が最初期待できるが 最終的には一人立ちしなければないことを説明した．AGUのジャーナルの出版事業を Wiley-Blackwell に委託することを決定したという報告を受けた．ただし，版権はAGU にある(競争入札にしたが，入札条件の一つとして挙げた)．Wiley-Blackwell のon-line技術を利用して原稿内

のcross referenceなど簡単に手に入れることができること，世 界的な販売があることなどの利点がある.

４．公益社団法人日本地球惑星科学連合　第 7 回学協会長会議（平成24年10月2日(火)）
・8 月 15 日付けで，連合のジャーナルに関する現状や趣旨を理解していただくために，Q&A をまとめて，理事，サイエンスセクションに配信するとともに連合のホームページへ掲載した．1万字以上で丁寧に説明しているので参照いただきたい.

５．平成 24 年度公益社団法人第 4 回理事会（平成 24 年 7 月 31 日(火)）
・7 月 2 日に京都大学で行われた EPS 関連 5 学会の会議で JpGU として open-access のe-journal を発行することが確認されたことが報告された.
・8 月 9 日に東京大学で第 3 回科 研費成果公開促進費対応臨時委員会が開催され，各学協会に説明を行った.

地球惑星科学に関する学術研究の
オープンアクセス電子媒体刊行による
国際情報発信の取組

― オープンアクセス刊行支援、**新規出版** ―

Progress in Earth and Planetary Science

申請時の計画調書の **"Space and Geosphere"** から改名

（公益社団法人）日本地球惑星科学連合　会長　津田 敏隆
副会長　川幡 穂高
副会長　中村 正人

Japan Geoscience Union 日本地球惑星科学連合

日本地球惑星科学連合（JpGU; Japan Geoscience Union）

1990年（H22）　地球科学関連5学会が合同で学術大会を開催したのが始まり
2005年（H17）　日本学術会議の改革に対応して、地球惑星科学関連の学協会を調整する窓口組織として発足
2008年（H20）　一般社団法人　日本地球惑星科学連合
2011年（H23）　公益社団法人　日本地球惑星科学連合

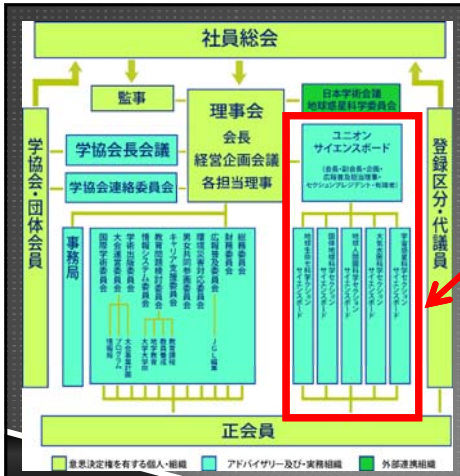
地球惑星科学の49学協会が参加
毎年5月に6日間千葉県幕張メッセにおいて連合大会を開催（秋は各学会が独自開催）
2012年（H24）論文発表件数（口頭・ポスター）は約4,000件
全参加者約7,500人、毎年増加傾向↑
（日曜日にはアウトリーチイベントを開催。例：「東日本大地震」、「金環日食」、「NASA/JAXA、衛星による地球観測」、高校生・一般は無料）

AGU（American Geophysical Union: 米国地球物理連合　25,000人（MoU協力関係）
EGU（European Geosciences Union: ヨーロッパ地球科学連合）12,000人（MoU協力関係）
→JpGU は日本に基盤を置き、世界に科学成果を発信する拠点 となることを目指す。

現在、連合大会ではアブストラクトのみを公表。
→本事業では、連合大会での優秀な発表を Open Access E-Journal で公表すべく

Progress in Earth and Planetary Science を創刊する

Japan Geoscience Union 日本地球惑星科学連合



JpGUでは多くの学協会にまたがる地球惑星科学の多くの学問分野を5つのサイエンスセクションに集約。

- 宇宙惑星科学
- 大気水圏科学
- 地球人間圏科学
- 固体地球科学
- 地球生命科学

セクションが研究活動の基盤。

JpGU独自のジャーナルを創刊する意義

1. **日本の地球惑星科学コミュニティーの唯一かつ最大の学術組織であるJpGUが、公益事業として、連合大会開催とともに、ジャーナル発行に取り組む使命がある。**ジャーナル発行は、JpGUが世界の重要なプレーヤーとしての影響力を持つために必須の条件である。（アメリカのAGU：JGR、ヨーロッパのEGU：Ann. Geophys.）
2. **日本のオリジナルな発想による研究成果（Selected Paper）を世界に発信するジャーナルを国内で維持運営する。**
3. **レビュー論文を、地球惑星科学の幅広い分野について総合的・計画的に刊行し、我が国のコミュニティの力を国際的に示す。**なお、国内の関連他ジャーナルはレビューをあまり扱っていない。
4. **世界の一流学術雑誌と同様に、論文誌を Open Access E-Journal として発行できるプラットフォーム/ツールを国内で整備する。**

Progress in Earth and Planetary Science

Japan Geoscience Union 日本地球惑星科学連合

これまでの検討の経緯

欧米の一流紙（米：JGR@AGU、欧州：Ann. Geophy.@EGU）と比肩しうる独自のOpen Access　E-Journal を出版すべく、3年間にわたり関連49学協会をはじめコミュニティ内でじっくりと検討してきた。

その結論

1） 地球惑星科学において、世界の一極を担えるOA電子ジャーナルを創刊。
2） 連合大会における多角的・融合的な研究成果を公表。
3） 参加学協会との共同発行。（JpGUと参加学協会が共存共栄）
→ これらは、今回の「研究成果公開促進費」の趣旨に合致する。

本提案はJpGUに参加する49学協会すべての賛同に基づいている。
（2012年10月2日、JpGU学協会長会議決定事項）

共同出版（学会を代表して編集委員等に就任、海外編集委員を推薦）
日本宇宙生物科学会，日本応用地質学会，日本温泉科学会，日本海洋学会，日本火山学会，形の科学会，日本活断層学会，日本気象学会，日本鉱物科学会，日本国際地図学会，日本古生物学会，日本沙漠学会，資源地質学会，日本地震学会，日本情報地質学会，日本水文科学会，水文・水資源学会，生態工学会，日本雪氷学会，生命の起原および進化学会，石油技術協会，日本測地学会，大気化学研究会，日本堆積学会，日本第四紀学会，日本地学教育学会，地学団体研究会，日本地下水学会，日本地球化学会，地球電磁気・地球惑星圏学会，日本地形学連合，日本地質学会，日本地熱学会，地理科学学会，日本地理学会，日本地理教育学会，地理教育研究会，地理情報システム学会，東京地学協会，東北地理学会，土壌物理学会，日本粘度学会，日本農業気象学会，物理探査学会，日本陸水学会，陸水物理学会，日本リモートセンシング学会，日本惑星科学会，地球環境史学会

「海外研究者にとっても魅力的な一流ジャーナル」にするために

【掲載する論文のカテゴリー】 レビュー（総論）20％ + JpGU大会の優秀発表（＋一般投稿）

【レビュー（総論）の位置づけ】
- ◎ レビューは「論文と本の中間」に位置し、最新の体系的な知識を集約する役割を果たす。
  大学等でゼミに使用 → 国内コミュニティのレベルアップ。海外への情報発信。
- ◎ 国内既存ジャーナルにはレビュー（総論）がほとんどない →参加学協会にもメリット。
- ◎ 複数著者による分担執筆も含む。→創刊号に向けて現在試行中。
- ◎ 既に、JpGU会員向けに最新トピックスを総論として季刊（各3万部）のニュースレター（和文）に掲載してきた。これらの著者に、今回創刊するジャーナルへの英文投稿を促す。

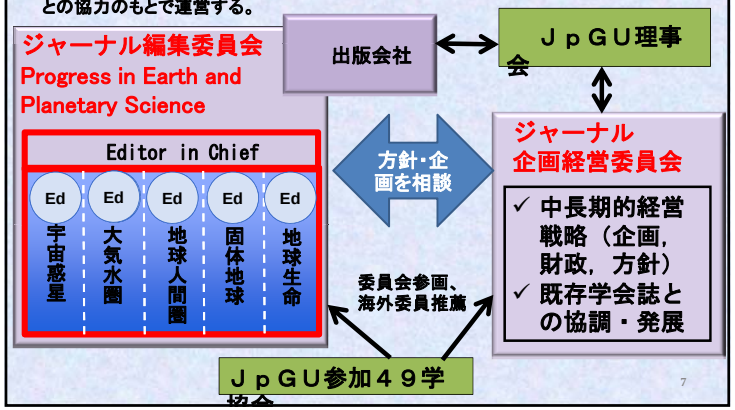
【優秀論文の発掘】 連合大会での約4，000件の発表から1（5）%を選べば、40（200）件の優秀な論文が推薦できる。採択された論文に対しコミュニティが評価すると期待。

【創刊ジャーナルの目標】 OAジャーナルで「独り立ち」するには、この分野での主要国際ジャーナルより高いIF2．5以上を目指すことが不可欠。2017年初頭に最初のIFが付くが、3年間の助走期間に、海外から多くの執筆者（講演者）を招聘し、JpGUジャーナルの論文が引用される国数を増加させる。掲載論文数の増加にも重点を置く。

【具体的なアイデア】 レビューのIFは通常7−10。レビュー論文（IF>7.0）を20%含め、同時に質の高い論文を集める（IF>2．0）。IF3．0（ =20%x7 +80%x2）を戦略的に達成する。

【迅速な出版】 迅速な出版（最短で3週間、最長でも6ヶ月。投稿→査読→受理→掲載）
立ちあげ期間中は、論文査読などに謝金を給付し、ジャーナル運営にプロ意識を持たせる。

【ジャーナル出版体制】
- ✓ 2014年創刊を目指し、既に2012年度に独自予算（約1,000万円）で出版事業を開始。
- ✓ 海外5大陸に営業拠点をもつ出版会社と契約を進めた。（最新情報： 入札の結果、OA電子ジャーナルでトップである Springer 社に内定）
- ✓ 企画経営と編集を司る2つの委員会を設置し、JpGU理事会およびJpGU参加49学協会との協力のもとで運営する。



本提案の新規ジャーナルの振興に関する新企画

【JpGU連合大会の国際化促進】
連合大会の国際セッションに著名な海外研究者に招待講演を依頼し、さらに論文執筆を要請する。（JpGUが5セクションの配当する活動費から外国人招聘旅費を支給する。外国人2名/セクションX5セクション＝10名）

【JpGU連合大会の新規ITサービス：たぶん世界初！！】
連合大会の会場で、発表者のJpGU個人番号（ID）を入力すると、その発表者の「研究APPEALサイト」につながり、新ジャーナルで発表した論文などの情報が検索者のパソコンにダウンロードできる。JpGUジャーナルの引用を促進する。

【日本の研究成果の再評価と引用数の増大】
日本人は、しばしば「日本人の論文を（引用が妥当なのに）引用しない！」（国際誌の数人の編集長の証言）→「日本人の成果を認め合い、相互の論文引用を促進」へメンタリティを意識改革。JpGU参加学協会も同様な問題を抱えるので協力して本件に対処する。

JpGUジャーナルの創刊スケジュール

1. 創刊2014年1月をめざす。（海外向けにはAGU、EGUなどのニュース、また国内学会誌に創刊の広告を掲載する）。
2. 創刊号のレビュー論文は主に国際的に著名な研究者（国内、海外）による。
3. 2013年5月の連合大会の際に大々的に投稿を呼びかける。
4. 原稿受付開始 2013年7月。
5. 編集委員は現在38名（海外19名＋国内19名）。最終的には50名以上。
6. 現時点では著者負担率は20% （最初の招待論文は無料）。一般投稿料は1,000 EUROに設定する予定。
7. OA電子ジャーナルなので、読者は無料でダウンロード可能。
8. 初年度は約800ページを2014年1月に出版予定。
9. 創刊から3年間の助走期間は、提携出版会社とも戦略を練りながら、質の高い原稿を集め、5年後に「独り立ち」を目指す。

予算要求額の主な内訳

1. OA電子ジャーナルの経費として、1 論文あたり1000ユーロ（当初約10万円だったが、円安により現在は約12万円）（Springer 社）。1ページあたり約1万円で他社と比較し妥当。JpGU自己資金で300ページ分を負担する。
2. 「海外情報発信強化」のために、当該学術刊行物の実務編集者を補助する事務職員の人件費： 300万円。
3. 総編集長(Chief Editor)、編集長（Section Editor)をはじめ編集委員を補助する事務職員の雇用経費： 400万円。
4. 当該学術刊行物の実務関係の「海外情報発信強化」する部分のみ、通信費およびコンピューターの借料、消耗品費： 180万円。
5. 「海外情報発信強化」の編集会議の経費。特に、海外委員がJpGUの連合大会の際に編集委員会に参加する旅費： 840万円。
6. 「海外情報発信強化」の企画経営委員会開催の経費： 300万円。
7. 論文査読謝金、受理後の英文校閲経費： 303万円。
8. 国際セッション開催を加速するための経費： 200万円。
9. アピールサイトなどのメモリー容量の増設： 200万円。
10. 広告・宣伝費用： 300万円。

まとめ

1. 日本地球惑星科学連合（JpGU）が主催する連合大会では、これまで日本のオリジナルの発想による研究成果が公表されてきた。
2. 現在、アブストラクトのみが刊行されている優秀な発表内容を、独自に出版する Open Access E-Journal で情報発信したい。約4,000件の発表の1（5）%を選べば、原稿は40（200）件。この多くは海外のジャーナルに流れている。
3. レビュー（総論）20% + JpGU大会の優秀発表（＋ 一般投稿）を収録し、 OAジャーナルで「独り立ち」するために IF2.5以上を目指す。
4. ジャーナルの企画経営委員会と編集委員会を中心に、JpGU理事会、参加49学協会および出版社（Springer 社）との協力のもとで出版事業を運営する。
5. 連合大会で多くの国際セッションを開催する。スマートフォンを使用した独自の検索システムを用いて新ジャーナルの引用促進を行うとともに、参加学協会と協力して「日本の研究成果の再評価と引用数の増大」を目指す。

Progress in Earth and Planetary Science

創刊 2014年1月予定

日本地球惑星科学連合

日本地球惑星科学連合

2013年5月19日（日）-24日（金） 千葉・幕張メッセ

JpGU の新しい Open Access e-journal

Progress in Earth and Planetary Science

2014 年 1 月創刊！！　今夏投稿受付開始！

- JpGU は加盟 49 学会と協力して地球惑星科学をリードする雑誌を出版します.
- ジャーナルの構成：総論（レビュー），優秀論文，一般投稿.
  注）優秀論文は連合大会の発表の中からセッション長が推薦し，投稿可.
- 組織構成：ジャーナル企画経営委員会＋編集委員会（50% は海外編集委員）
  ＋JpGU 理事会，参加 49 学協会，出版社の協力.
- 詳細なスケジュール，投稿料金等は 6 月半ば頃に学会等のニュースを通じて連絡します.

皆様の研究成果の積極的な投稿をお願い致します！

Japan Geoscience Union 日本地球惑星科学連合

JpGU New Open Access-e-journal

Progress in Earth and Planetary Science

- *You are cordially invited to submit your manuscripts to the new JpGU peer-reviewed Open Access e-journal, which aims to publish excellent review articles and quality assured original research articles, covering all fields of Earth and Planetary Science.*
- *The submission of the manuscript will start this summer, and the first volume will be published in January 2014.*
- *Our permanent goal is to publish high quality articles in order to globally contribute to the geoscience community.*
- *Further information about publication schedule, submission fee, and other related matters, will be announced in mid June on the JpGU web site and in the advertisements in AGU, EGU and AOGS journals/newspaper.*

Japan Geoscience Union 日本地球惑星科学連合

課題番号:254001

平成25年度　国際情報発信強化　計画調書

新規

1 審査希望分野	
	□ 人文･社会系
	■ 理工系
	□ 生物系

〒 113 － 0032

2 応募団体 所 在 地　東京都文京区弥生2-4-16　学会センタービル4階

3 応募団体 名　称　公益社団法人日本地球惑星科学連合

4 応募代表者 職名･氏名（ふりがな：かいちょう つだ としたか）　会長　津田敏隆　印

5 連絡･照会先　電話（ 03 － 6914 － 2080 内線 ）
FAX（ 03 － 6914 － 2088 ）
e-mail（ kawahata@aori.u-tokyo.ac.jp ）

所属･職名･氏名（ふりがな：とうきょうだいがく たいきかいようけんきゅうしょ きょうじゅ かわはた ほだか）：東京大学大気海洋研究所･教授･川幡穂高

6　取組の名称	地球惑星科学に関する学術研究のオープンアクセス電子媒体刊行による国際情報発信の取組		
7　学術刊行物の名称	「Progress in Earth and Planetary Science」		
8　応募区分	□ 国際情報発信強化（A）　□ 国際情報発信強化（B）　■ オープンアクセス刊行支援		
9　重複応募の有無	□ 有 ■ 無	「学術定期刊行物」の継続課題の課題番号	新規
（オープンアクセス刊行支援を選んだ場合に記入。） 10　将来オープンアクセス刊行を予定している時期又は、既にオープンアクセス刊行している場合はその時期			平成　26　年　1　月
11　種別	■ 種別Ⅰ（英文率100%）　□ 種別Ⅱ（英文率100％未満）		

12 「種別Ⅰ」を選んだ場合で、英文以外の外国語の場合、使用する言語及びその理由

（複数の学術団体等で協力体制をとって国際情報発信強化を行うための取組を行う場合の、団体名と団体数）

JpGUに参加するすべての49学協会（日本宇宙生物科学会，日本応用地質学会，日本温泉科学会，日本海洋学会，日本火山学会，形の科学会，日本活断層学会，日本気象学会，日本鉱物科学会，日本国際地図学会，日本古生物学会，日本沙漠学会，資源地質学会，日本地震学会，日本情報地質学会，日本水文科学会，水文･水資源学会，生態工学会，日本雪氷学会，生命の起原および進化学会，石油技術協会，日本測地学会，大気化学研究会，日本堆積学会，日本第四紀学会，日本地学教育学会，地学団体研究会，日本地下水学会，日本地球化学会，地球電磁気･地球惑星圏学会，日本地形学連合，日本地質学会，日本地熱学会，地理科学学会，日本地理学会，日本地理教育学会，地理教育研究会，地理情報システム学会，東京地学協会，

国際情報発信強化－4
国際情報発信強化－6

18　補助要求額	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	千円 31,418	千円 31,726	千円 33,784	千円 37,258	千円 42,088

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
(1)　交付予定額	千円 31,400	千円 31,700	千円 33,800	千円 37,300	千円 42,100
(22)	千円 100%	千円 100%	千円 100%	千円 100%	千円 100%
(23)	千円	千円	千円	千円	千円

固体地球科学セクションビジネスミーテイング議題
(2014.05.19 メモ)

5 月 19 日(日)
固体地球セクションボード・ビジネスミーティング（略記号：SSB-BM）　幕張メッセ　202 号室 13:00 ～ 14:00

参加者：木村純一・大谷栄治・道林克禎・西山忠男・松澤　暢・歌田久司・金川久一・入舩徹男・田中　聡・古村孝志・成瀬　元・サティッシュ　クマール・鈴木勝彦・ウォリス　サイモン

【報告事項】
１．連合ジャーナルの現状について、連合ジャーナルのタイトルについて。
Progress in Earth and Planetary Science　（JSPS 予算満額）

２．ＡＯＧＳ２０１４札幌について　：LAC (Local advisory board)として JPGU が参加する。

【審議事項】
１．　固体地球科学セクションの顕彰制度および JpGU 全体の顕彰制度について
＝フェローは JPGU 全体の問題なので，同時に設立すべき.
＝SSB から要望をだす＝賛成（フェローなどをたくさん出して他分野にアピールすべき）
＝JpGU フェロー制度設置を提案することとした.
＝JpGU メダル制度設置を提案することとした。なお、JpGU のシニアのメダリストを同時にフェローとする案も提案された。
＝論文賞（JpGU ジャーナル）も検討課題である。

・固体地球科学セクション（SSB）独自の顕彰制度

＝ポスター賞はすでに開始されているのでそれに準じて作成できると思われるが理事会に確認をすることとした。
＝顕彰制度の新設に賛成（賞をもっとたくさん出して他分野にアピールすべき）
＝SSB 独自の顕彰制度の具体的内容：固体地球セクション若手奨励賞を創設したい。
固体地球セクション学生優秀発表賞は既存：学会発表を基準にしている。
固体地球セクション若手奨励賞（学会発表に関係しない）を作る方向で検討を開始す

る.
名称は（XX メダル，YY アワードなど）．成瀬委員＋サイモン委員にたたき台の提案をお願いすることとした.
今後メールベースで議論し、2014 年 SSB までに制定を目指す.

２．　固体地球科学セクションの望ましい内部構造について：
・自主的な小委員会（または分科会：仮名）を固体地球科学 SB 内部につくることが承認された。
＝だれでもつくれる・いつでもつくれる・メールリストを使って提案するものとする。

・内規が必要。今後検討することとした。素案は以下のようである：
＝機能別の小委員会とするのがよい。President または三役に提案し、セクションボード会議で承認する。１期は２年間を期間の単位とするとし、継続可。
以上をまとめて小委員会（分科会）の規約案を作ることとした。

３．　連合大会におけるハイライト審査基準
・プログラム委員が JpGU ハイライト論文の推薦を担当することに決定した.
・審査基準についてはプログラム委員（田中委員、鈴木委員）が原案を提案してメール会議にて決定する事になった.

４．　ＪＰＧＵとして今後ＡＯＧＳ（＋ＷＰＧＭ）との関係など国際性をどうするのか。ＪＰＧＵの国際セッションの方向性が必要
・AOGS 参加者は固体地球関係が少ない.
・来年は札幌で AOGS が開催されるが、対応をどうするか、今後検討が必要.
メールベースで継続審議

５．　連合新ジャーナル（PEPSci）の原稿について
・外国人エディトリアルボードメンバーの追加登録（レビューを書いていただけると一番良い。また、エディターをしていただけるとさらい良い。）
・レビュー論文投稿の募集を開始する．よろしくご協力お願いしたい.

６．　固体地球の HP の現状と問題点
・サーバーができる（JpGU６月にアナウンスメントあり）
・コンテンツが重要検討してメールベースで議論する。WEB 委員として、道林委員、鈴木委員のコンテンツのアップ等運用方法を検討していただく。

未成事業・前受収益明細書

（平成25年3月31日現在）

			10月（含9月）	11月	12月	1月	2月	3月	4月計上分	10月組戻し	合計
											0
											0
受取会費	前受会費		2,000			12,000	146,000	2,820,000			2,980,000
											0
											0
学術大会事業収益			0	1,200,000	450,000	16,000	-29,000	9,162,000			10,799,000
	大会参加料					11,000	181,000	3,493,500			3,685,500
	投稿料収入					5,000	90,000	2,875,000			2,970,000
	団体展示料収入			1,200,000	450,000		-300,000	1,800,000			3,150,000
	大学ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝﾊﾟﾈﾙ収入										0
	書籍展示料収入							430,000			430,000
	ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄﾃﾞｽｸ収入							200,000			200,000
	会議室使用料							243,500			243,500
	懇親会収入										0
	その他							120,000			120,000
											0
前受収益	**合計**		**2,000**	**1,200,000**	**450,000**	**28,000**	**117,000**	**11,982,000**			**13,779,000**
											0
											0
学術大会事業支出											0
	給料手当		575,611	585,945	607,385	621,399	629,000	588,868	765,628	-575,611	3,798,225
	法定福利費		79,989	78,702	78,770	78,624	78,666	78,662	81,408	-79,989	474,832
	臨時雇賃金		112,000	119,500	83,000	51,000	57,500	85,500			508,500
		ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ作成費	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000			120,000
		その他ｱﾙﾊﾞｲﾄ	92,000	99,500	63,000	31,000	37,500	65,500			388,500
	会議費										0
	旅費交通費		173,170	26,300	15,200	11,320	10,800	10,160	173,525		420,475
		通勤費	139,350	12,880	15,200	11,320	9,760	10,160	173,525	-139,350	232,845
		交通費	33,820	13,420	0	0	1,040				48,280
	通信運搬費					28,424		10,800			39,224
	減価償却費		212,537	212,537	212,537	212,537	212,537	212,537			1,275,222
	消耗什器備品費										0
	消耗品費										0
	印刷製本費		0	0	14,520						14,520
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ編集費									0
		ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ印刷費									0
		ﾎﾟｽﾀｰ製作費			14,520						14,520
		記録費									0
		その他									0
	賃借料		125,024	125,024	125,024	125,024	125,024	125,024	112,455	-112,455	750,144
		事務所賃借料	112,455	112,455	112,455	112,455	112,455	112,455	112,455	-112,455	674,730
		事務機賃借料	12,569	12,569	12,569	12,569	12,569	12,569			75,414
		会場賃借料									0
		設備機材賃借料									0
	設営費										0
	支払手数料		2,530	870	1,710	700	7,110	284,888			297,808
	委託費		30,000								30,000
		ｼｽﾃﾑ構築費									0
		その他	30,000								30,000
	租税公課							7,000			7,000
											0
未成事業支出	**合計**		**1,310,861**	**1,148,878**	**1,138,146**	**1,129,028**	**1,120,637**	**1,403,439**	**1,020,561**	**-794,950**	**7,476,600**

予算対比正味財産増減計算書

平成24年 4月 1日から平成25年 3月31日まで

公益目的事業会計　　（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
１．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,000	1,253	747
基本財産受取利息	2,000	1,253	747
受取会費	10,000,000	9,998,000	2,000
当年度会費	10,000,000	9,998,000	2,000
事業収益	67,263,500	71,210,800	-3,947,300
学術大会事業収益	66,713,500	71,115,800	-4,402,300
大会参加料収入	41,303,265	43,790,500	-2,487,235
投稿料収入	8,626,475	9,170,500	-544,025
団体展示料収入	11,800,000	12,900,000	-1,100,000
大学インフォメーションパネル収入	700,000	1,050,000	-350,000
書籍展示料収入	810,000	840,000	-30,000
パンフレットデスク収入	340,000	450,000	-110,000
会議室使用料収入	2,253,840	2,005,000	248,840
懇親会収入	409,920	296,500	113,420
学協会出展料	0	270,000	-270,000
その他	470,000	343,300	126,700
刊行事業収益	550,000	95,000	455,000
ＪＧＬ広告料収入	550,000	70,000	480,000
メールニュース広告料収入	0	25,000	-25,000
雑収益	50,000	78,643	-28,643
受取利息	0	14,640	-14,640
その他	50,000	64,003	-14,003
経常収益計	77,315,500	**81,288,696**	-3,973,196
(2) 経常費用			
事業費	68,097,160	59,593,880	8,503,280
給料手当	7,200,000	7,944,648	-744,648
法定福利費	684,000	788,840	-104,840
臨時雇賃金	4,160,000	3,765,500	394,500
ホームページ作成費	260,000	360,000	-100,000
その他アルバイト	3,900,000	3,405,500	494,500
会議費	500,000	350,000	150,000
旅費交通費	5,007,800	3,099,920	1,907,880
通勤費	560,000	432,355	127,645
交通費	4,447,800	2,667,565	1,780,235
通信運搬費	1,350,000	1,951,527	-601,527
減価償却費	2,600,000	2,555,872	44,128
消耗什器備品費	124,000	0	124,000
消耗品費	1,392,000	1,268,029	123,971
印刷製本費	12,804,900	7,692,826	5,112,074
プログラム編集費	315,000	0	315,000
プログラム印刷製本費	2,361,000	3,201,450	-840,450
ポスター製作費	140,000	140,083	-83
書籍費	120,000	36,564	83,436
ＪＧＬ印刷費	2,493,000	3,703,770	-1,210,770
その他	7,375,900	610,959	6,764,941
出展費	70,000	111,406	-41,406
賃借料	20,125,460	18,551,360	1,574,100
事務所賃借料	1,349,460	1,349,460	0
事務機賃借料	156,000	150,828	5,172
会場賃借料	15,700,000	14,143,584	1,556,416
設備機材賃借料	2,920,000	2,765,988	154,012
その他	0	141,500	-141,500
設営費	3,800,000	3,956,400	-156,400
諸謝金	40,000	0	40,000
支払手数料	1,783,000	1,510,496	272,504
支払賛助金	815,000	815,000	0
委託費	5,538,000	5,130,583	407,417
システム関連費	5,168,000	4,667,250	500,750
その他	370,000	463,333	-93,333
雑費	100,000	98,233	1,767
保険料	3,000	3,240	-240
管理費	9,218,340	**9,923,764**	-705,424
給料手当	3,900,000	4,057,541	-157,541
法定福利費	348,000	379,388	-31,388
旅費交通費	648,000	597,061	50,939
通勤費	348,000	280,760	67,240
交通費	300,000	316,301	-16,301
通信運搬費	170,000	147,283	22,717
減価償却費	0	45,188	-45,188
消耗什器備品費	50,000	0	50,000
消耗品費	220,000	317,464	-97,464
修繕費	0	61,215	-61,215
賃借料	901,340	887,952	13,388
事務所賃借料	792,540	792,540	0
事務機賃借料	88,800	88,572	228
その他	20,000	6,840	13,160
諸謝金	1,155,000	1,207,500	-52,500
租税公課	1,670,000	1,502,500	167,500
支払手数料	156,000	179,906	-23,906
委託費	0	525,000	-525,000
その他	0	525,000	-525,000
雑費	0	15,766	-15,766
経常費用計	77,315,500	**69,517,644**	7,797,856
評価損益等調整前当期経常増減額	0	11,771,052	-11,771,052
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	0	11,771,052	-11,771,052
２．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	**11,771,052**	-11,771,052
一般正味財産期首残高	0	69,742,286	-69,742,286
一般正味財産期末残高	0	81,513,338	-81,513,338
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	0	**81,513,338**	-81,513,338